

新しい秋田駅西口バスターミナルが、 皆さまをお出迎えします。

「秋田杉によるお出迎え空間」

秋田駅西口バスターミナルは、「秋田杉」をふんだんに使った機能的で美観も兼ね備えたバスターミナルとして生まれ変わりました。

日本三大美杉の1つに数えられる「秋田杉」は、全国一の蓄積量を誇る秋田県の財産であり、有効に活用すべき資源です。その「秋田杉」を用いて、県都秋田市の玄関口にふさわしいバスターミナルとして、「県内外の皆さまをお出迎えする空間」を提供するとともに、秋田駅前のにぎわい創出に貢献してまいります。

会社概要 (平成25年12月1日現在)

所在地…………… 秋田市川元山下町6番12号
代表者…………… 代表取締役 渡邊靖彦
創立年月日…………… 大正10年1月15日
開業年月日…………… 大正11年4月21日
資本金…………… 1億7,250万円

主な事業内容

1. 一般乗合旅客自動車運送業
(一般路線バス・高速バス)
2. 一般貸切旅客自動車運送業
(貸切バス)
3. 自動車分解整備事業
4. 旅行斡旋業
5. 日本航空からの受託業務(旅客取扱業務)
6. 遊園事業(寒風山展望台)
7. 保険代理店業
8. 広告宣伝の斡旋業
9. 土地建物の賃貸業(ドン・キホーテ秋田店)

関連会社

1. 秋田中央トランスポート株式会社
2. 株式会社船川タクシー





秋田駅西口バスターミナル建替にあたっての経緯

バスターミナル建替のきっかけは平成23年3月11日の東日本大震災を契機として実施した耐震性調査で、脚柱部の一部に腐食がみられ補強対策が必要との結果が出たことからでした。築30年が経過し老朽化が進行していることに鑑み、一時しのぎの補強ではなく、建替を行うとの判断に達したものです。

秋田駅西口バスターミナルは、県都の玄関口かつ秋田市の顔であり、極めて公共性の高い建築物です。そこで、現状の秋田杉を承継しつつ、県都の玄関口にふさわしい機能と美観を兼ね備えたバスターミナルに建替え、イメージを一新することにいたしました。日本三大美杉のひとつである秋田杉を全体に活用した木質化施

設として、秋田駅前を訪れる多くの方々の目を楽しませ、県産材をアピールするとともに普及に貢献したいと考えております。



▲旧バスターミナル



秋田駅西口バスターミナルの概要

所在地 秋田市中通2丁目7番地

沿革

昭和58年 建替(当社1バス所有・秋田市交通局3バス所有)
平成18年4月 秋田市交通局から路線移管に伴い3バス譲渡

土地 秋田市とJRから借用

【秋田市】乗降所・案内所(635㎡)
通路は道路占用地(1,532㎡)

【J R】待機地0番(道路占用地)

利用状況

秋田空港リムジンバス、一般路線バスの発着

1日あたりの 発着本数	平日	1,610 本
	土・日・祝日	1,259 本
1日あたりの 平均乗降客数	平日	6,453 人
	土・日・祝日	4,517 人



プロジェクトメンバー

ナグモデザイン事務所
【代表】南雲 勝志(デザイナー/東京)

小野寺康都市計画事務所
【代表】小野寺 康(一級建築士/東京)

間建築研究所
【代表】堀井 圭亮(一級建築士/秋田)

WAO渡邊篤志建築設計事務所
【代表】渡邊 篤志(一級建築士/東京)

秋田公立美術大学
【助教】菅原 香織(景観デザイン専攻)

花田設計事務所
【代表】花田 順(一級建築士/秋田)

【施工会社】中田建設株式会社

南雲氏、小野寺氏は東京の方で、全国各地において、駅前や公共空間に、杉を活かした景観デザインを多数手掛けており、平成24年5月26日に秋田市で開催された「秋田杉景観デザインコンペ」の審査委員を務められました。



完成までの流れ

運行しながらの工事であるため、4棟あるうち2棟毎に主に日中工事を行いました。工事期間中は0番ホームに2箇所、金萬駐車場側に3箇所の臨時バス停を設置しました。

工事期間 5月20日着工、10月14日完成、10月15日供用開始



起工式

6月1日、建替工事の起工式をバスターミナル特設会場で渡邊社長や施工業者の関係者が出席し、神事で鎮火入れなどを行って工事の安全を祈願しました。



前期工事完成

3・4バースの建替工事は8月11日に完成し12日から供用開始しました。



後期工事完成

1・2バースの建替工事は8月12日に着工し10月14日に完成しました。供用開始の15日には秋田駅ばらーどで、バスのイラストの焼印が入った秋田杉製コースターを配布しPRしました。



竣工式

10月11日バスターミナルに設置したテント内で竣工式を行いました。渡邊社長、橋口副知事、穂積秋田市長ら関係者30名が出席し神事で安全を祈願し、完成を祝いました。当初の予定より日数を要し完成には5ヶ月ほどかかりましたが、事故もなく完成の日を迎えることができました。



▲新バスターミナル(昼)



▲新バスターミナル(夜)



形状について

バスターミナルは一般的には安全面などからロータリー式が主流ですが、秋田駅前は敷地面積の関係から現在の形状となったものです。バスターミナル建替にあたり、バスの通路を横断して各バースに移動する危険な現状を改善するとともに、事故の未然防止など安全性の確保と構造上の必要性から、乗車側の背面は歩行者が横断しないように、ガラス及び格子により全て塞ぎました。これは防風雨対策の一環でもあります。

- 乗換のためバス進入側に従来通り横断歩道を設置しました。
- 乗換の利便性向上を図るためできる限り方面毎に乗場を集約しました。
- 風雨対策として風除室を4箇所を増設し、又ベンチの背面の20箇所を中間梁までガラスで塞ぎました。



▲風除室

▲背面を塞ぐ



デザインについて

バスターミナルには、県産材の秋田杉が使われています。

①デザインイメージ

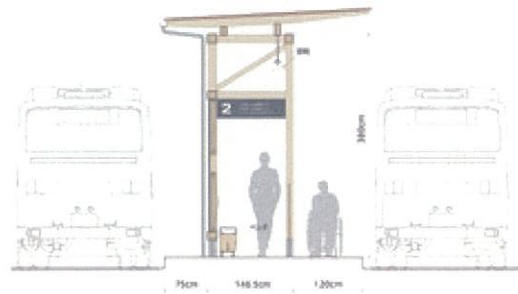
秋田駅の玄関口に相応しい秋田杉によるおもてなし空間をつくる事を目標としました。シンプルながら柱や梁、垂木及び壁面格子を連続させることで、優しく、しかもインパクトのある秋田杉の空間をつくりました。また伝統的な組子細工を壁面に設置し、秋田らしさを表現しています。

②主構造

主構造は秋田杉による木構造です。耐雪強度を考慮し、柱2本で屋根を支える門型構造としました。また極力軽快なイメージにするため、柱脚、梁、桁、ジョイント部に金属による補強を行っています。

③断面構成

歩道は120cm確保し点字ブロック敷設や車いす通行を可能にしています。背面は横断抑制のため全面を縦格子で壁面化し、停車中のバスを追い越すことができるように75cmの間隔をとり柱の位置を決めました。



④仕上、耐久性

杉、鉄、ガラスといずれも天然素材を使用、時間と共に味わいの増す素材で構成しています。秋田杉は加圧注入処理(モックル処理)を行い、耐久性、安全性の確保と同時に秋田杉の美しさを損なわない処理です。金属部は杉と調和するよう鉄の質感を持ったリン酸亜鉛処理を施しています。

屋根は冬期の落雪を防ぐため緩勾配の片流れとし、耐雪構造にしています。屋根葺き材は耐久性のあるガルバリウム鋼板、さらに雨樋は冬期の破損を考慮、強固な鉄製としました。

木材のモックル処理について

木材の腐食防止としてモックル処理をしています。木材内部で薬液を化学変化させ防腐・防蟻し材質を安定させる化学改質処理をした木材です。(酸化亜鉛含浸処理)

特 長

- ①水、害虫を問わず耐久性に優れています。
- ②薬剤に毒性がなく、人は勿論、自然環境にも無公害です。
- ③10年無料保証(一般防腐処理の場合3~4年毎にメンテナンスが必要)
- ④耐光性に優れ、木材の風合いを損ないません。



⑤照明

シェルター内照明

約90cm間隔で省電力のクリアー電球型LEDを使用、長寿命で明るさを確保しながら、裸電球が連続する、懐かしく暖かい雰囲気を夜の西口ターミナル全体に醸し出しています。

街路灯

バス全体に秋田杉を用いた4本の街路灯を設置しています。強度を確保するため、柱の中心部は鋼管を使いながら、外周は秋田杉で覆っています。ともすれば無機格的になりがちな街灯をバスシェルターに調和する優しいデザインにしています。光源はやはりLEDを使用し、長寿命、省電力、メンテナンスを容易にしています。

⑥安全性その他

- 背面の縦格子には目線の高さにスリットを設け、バス利用者、ドライバー相互の視認性を確保しています。
- 風除室ガラス部の格子は取り外し式とし、メンテナンスをしやすいしています。
- バリアフリー基準に準拠、点字ブロック敷設や車いす通行を可能にしています。
- 広告や掲示板スペースは出来るだけシェルターと一体になったデザインとし、全体をすっきり見せる工夫をしています。
- ベンチは大断面の秋田杉を使用し、暖かで、やわらかい杉の質感を味わっていただけます。



組子細工について

秋田駅前には県都秋田市の玄関口であり、秋田県らしさを前面に出すため、県内の4つの「祭り」を、秋田を代表する工芸技術である「組子細工」で表現し取り付けました。

設置場所	行事名	開催日
1バス	竿燈まつり(秋田市)	8月3日~6日
2バス	西馬音内盆踊り(羽後町)	8月16日~18日
3バス	かまくら(横手市)	2月15日~16日
4バス	なまはげ(男鹿市)	2月第2金・土・日曜日 [なまはげ祭灯まつり]

「祭り」の詳しい問合せ先

秋田観光コンベンション協会	018-824-1211
羽後町観光物産協会	0183-62-2111
横手市観光協会	0182-33-7111
男鹿市観光協会	0185-24-4700



▲竿燈まつり



▲西馬音内盆踊り



▲かまくら



▲なまはげ



施設概要

項目	詳 細		項目	詳 細	
建築面積・延べ床面積	案内所	23.39㎡	ベンチ	1バス	1カ所2脚
	1バス	40.83㎡		2バス	3カ所6脚
	2バス	65.97㎡		3バス	3カ所6脚
	3バス	72.25㎡		4バス	3カ所6脚
	4バス	75.39㎡		合 計	10カ所(20脚)
	合 計	277.83㎡	風除室	1バス	1カ所(4脚)
1バス	155.04㎡	2バス		1カ所(4脚)	
2バス	163.18㎡	3バス		1カ所(4脚)	
3バス	172.10㎡	4バス		1カ所(4脚)	
4バス	159.31㎡	車路の幅		1～2バス間	6.70m
合 計	649.63㎡		2～3バス間	6.65m	
1バス	127.23㎡		3～4バス間	6.60m	
屋根面積	2バス	140.32㎡	柱の本数	1バス	40本
	3バス	153.40㎡		2バス	44本
	4バス	137.94㎡		3バス	48本
	合 計	558.89㎡		4バス	50本
屋根の幅	1バス	3.57m		合 計	182本
	2バス	3.57m	器具照明	照 明	全体で172灯
	3バス	3.57m		街 灯	4灯
	4バス	3.07m	木材使用量	1バス	21.1㎡
1バス	45.500m	2バス		24.1㎡	
2バス	47.885m	3バス		26.4㎡	
3バス	50.495m	4バス		26.4㎡	
4バス	53.615m	合 計		98.0㎡	
バスの長さ	1バス	3.415m			
	2バス	3.415m			
	3バス	3.415m			
	4バス	2.915m			



補助金について

建替には多額の費用を要するため、公共性、県産材利用促進、まちづくりなどの観点や持続可能な公共交通の維持のため秋田県と秋田市に支援をお願いしました。

- (1)名称 木の国あきた拠点施設整備事業(国・秋田県)
秋田市公共建築物等木材利用促進事業(秋田市)
- (2)補助金の目的 県産材の需要拡大と秋田のイメージアップを図るため、県産材普及PRモデル施設として木造・木質化を図る事業の経費が対象
- (3)所管官庁 林野庁
- (4)取扱い窓口 秋田県秋田地域振興局 農林部森づくり推進課
秋田市農林部農地森林整備課
- (5)概要 民間事業者が整備する公共性の高い建築物を整備する事業者などが、県産材を活用し主構造が木材で建築物などの整備を行う場合は工事費及び設計費を支援する。(公共交通機関の旅客施設はその対象に含まれる)